

令和5年

駒ヶ根市教育委員会 第12回定例会

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

令和5年駒ヶ根市教育委員会 第12回定例会議事日程

告示年月日 令和5年10月20日（金曜日）

開催年月日 令和5年10月31日（火曜日）

開催場所 駒ヶ根市役所 保健センター2階 大会議室

開会時刻 午後1時59分

閉会時刻 午後3時18分

- 1 開会
- 2 教育長報告
- 3 事業報告及び事業計画
 - ・次回定例教育委員会 11月28日（火）14時～本庁舎2階 大会議室
- 4 審議案件
 - 議案第1号 駒ヶ根市文化財審議会委員の任命について
 - 議案第2号 十二天の森整備活用検討委員の委嘱について
- 5 協議事項
 - なし
- 6 報告事項
 - (1) 行事共催等承認申請の専決処分について
- 7 その他
 - (1) 令和5年度上伊那社会教育関係者懇談会について
 - (2) 中学校の休日部活動地域移行の現在までの進行状況について
- 8 閉会

出席者

教 育 長	本 多 俊 夫
教育長職務代理者	福 澤 惣 一
委 員	唐 澤 浩
委 員	木 下 健 一

欠席者

委 員	山 田 恵 美
-----	---------

委員以外で会議に出席した者

教育次長	北 澤 英 二
子ども課長	赤 羽 知 道
社会教育課長	宮 下 る み
学校教育係長	水 野 毅
教育総務係長	倉 田 さおり
教育総務係	竹 田 正 樹

傍聴：0人（うち報道機関0人）

会議のてんまつ

議事日程記載のとおり

午後1時59分 開会

1 開会

○本多教育長 改めまして、こんにちは。(一同「こんにちは」)

時間より一、二分早いのですが、おそろいようですので始めたいと思います。

ただいまから令和5年駒ヶ根市教育委員会第12回定例会を始めたいと思います。よろしくお願ひします。

先日――10月27日金曜日にありました松本市での長野州市町村教育委員会研修総会は本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

参加者の中で赤小の元校長であります飯澤校長から駒ヶ根市の在り方がよかったというようなことを全体の前で話していただいた。駒ヶ根市にいて出た方、または外から冷静に見たときに、振り返ってみてもよかったというようにお話をいただいたことは非常によかったなと思いました。いろんな市町村の教育長たちからも、ぜひこれを参考に前向きに進めたいというようにお話を聞かれました。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

2 教育長報告

○本多教育長 私のほうからでございますけれども、そこに中学校の教材にもなっております秋元不死男の「鳥わたる こきこきこきと 缶切れば」と書きました。ちょっと冗談かと思うような俳句でありますけれども、この時期はやっぱり風情を楽しむ、そんな時期なのだかと、ぴったりだという感じがいたします。缶切も、こんなふうにはコキコキなんてやるような缶切はもうほとんどなくて、ワンプッシュでプシュッとやれば取れるようなものになりましたけれども、何か懐かしさを感じるところであります。

今日は最後の「内から育つ」姿を求めて」のところからちょっと話を進めたいと思います。

定例教委や校長会でもちよくちよく私の朝の出勤状況の話をするのですが、子どもたちやいろんな一般の人たちも含めて挨拶を交わすわけですが、大分傾向性というかが見えてまいりました。

子どもは、たった一人で歩いているときには本当によく挨拶ができます。だけれども、2人だと時々話に夢中になって忘れるようなところもございます。3人以上だとあんまりいい反応はございません。

姉と妹だったか弟だったかと思ひますけれども、そんな兄弟は、上の子が挨拶すると下の子はまねをしてたどたどしい声で挨拶をします。

また、コロナ禍のときには、もう完全にマスクでみんな全員が顔を隠しておったわけですが、あのときにもマスクだから聞こえないのかなと思ったけれども、顔が隠れていると恥ずかしさがないのか、結構挨拶をしていたなと思ひしております。

こっちがにこっと笑いますと、とてもいい笑顔で内から出てくる挨拶を返してくれるわけです。そんなような瞬間をこっちが楽しんでいるなんていうことはついぞ分からないと思ひますけれど

も、そんな瞬間を私のほうでは楽しんでおります。ふと我に返ったときに――終わりから4行目にも書いてありますけれども、にっこりほほ笑むとすてきな笑顔が見られるということが書いてありますが、改めて私はどんな顔をして子どもや一般の方たちと挨拶をしているのかなとちょっと思いました。

それで、ある本でどんなにむしゃくしゃしていても、どんなにあの人が嫌いだと思っても作り笑顔でもいいから笑顔で言葉を交わす、挨拶をすると全く違った状況が生まれるよということをちょっと本で読みました。自分は毎日挨拶をして、自分は気持ちのいい思いでおるけれども、俺はどんな顔をして挨拶しているのかなと思ったときに、ちょっと欠けているかもしれないなということを自戒いたしました。

子どもたちに内から育つということを求めているのであれば、こっちがちょっと襟を正さないといかんなということを立ち止まって考えたわけでございます。

長くなって申し訳ありません。

ちょっと戻っていただきまして、「先達の教え1」にある「ドラッカーの教え」というところで

す。皆さんは様々いろんなお仕事に就かれていて、よく本も読まれていると思いますけれども、その中に「人の意識は、知覚を通して動機づけられて、はじめて行動として実現する。」というようなことが出ておりました。

ドラッカーという人の本の中には、売上げ目標だとか利益目標だとか、そういう言葉は一切ないのだそうです。じゃあどういうふうにしてそういうやる気を高めたりしているのかなといったときに、何ていいますか、今私が冒頭で話をしましたように、測定する対象に意識を向けるという法則にのっとって言っているだけだというのですね。

だから、具体的なことを言うと、ちょうど真ん中のところに「例」として書いてあります。

おまあ指標というようなことを言われた飲食店の経営者がいたそうです。おまあ指標。「お」は「おいしかった」、「ま」は「また来るよ」、「あ」は「ありがとう」だそうです。

つまり、また来るよと言ってもらうためにはどうしたらいいか、これは頭を働かせて本当に知覚的な指標ができるわけで、ホールスタッフにしても厨房にしても担当者にしても、どうすりゃいいのかなということをその気になって真剣になって考える。こういうことが知覚的な動機づけで初めて動き、活動、行動として現れるのだということを知り、ああなるほどと思いました。

目的を明確にとよく言うのですけれども、これにも結びつくことだなと思います。それで、押しつけの目的ではなくて、本人が納得するということがやっぱり大事なのだなということを改めて感じさせられました。

そこから何を思ったかということは、ハートマークの2行目ですけれども、結果として行動がその人任せとなつて方向づけに失敗するようでは困るなということです。

何を言いたいかということ、校長先生方は4月に自分の学校の経営方針だとかいろんなことをお話しするわけですが、それが言いっ放しになって、あとは先生方にお任せだからねというだけでは駄目で、やっぱり校長先生方のすばらしい方針が知覚を通して動機づけられないと駄目なのだのと、そんなことを実践と結びつけてほしいということを持ったので、教育委員さんたちにもぜひ知ってほしいなということで、そこに載せさせていただきました。

最後であります。

2 ページ目です。

秋になるといろんなことを思い出したり考えたりしてしまうということで、槇原敬之の「世界に一つだけの花」の歌詞を見て、改めてこれって当たり前なのだけれどもいいところをついた詩だなと思いました。

ぜひ皆様方も改めて見ていただいて、周りばかりを気にしたり順位ばかり気になったり、そういうのは生き方の本質に寄り添っていないのではないかなという思いもあつたりしたものですから、私だけではなく、ぜひ振り返りの一助にいただければと思って掲げさせていただきました。

本日もお世話になります。よろしく申し上げます。

3 事業報告及び事業計画

○本多教育長 それでは事業報告及び事業計画をお願いします。

〔北澤教育次長 事業報告及び事業計画資料により説明〕

○本多教育長 事業報告、事業計画につきまして、いかがでしょうか。

10月には本当に日を空けずに教育委員さんたちと何回もお行き会いするというような月でありましたけれども、まだ11月も忙しくなります。お世話になります。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 よろしく申し上げます。

ちなみに、次回の定例教委は11月28日の午後2時から本庁舎の2階ということでありますので、よろしく申し上げます。

4 審議案件

議案第1号 駒ヶ根市文化財審議会委員の任命について

○本多教育長 それでは審議案件のほうをお願いしたいと思います。

議案第1号でございますが、駒ヶ根市文化財審議会委員の任命について、お願いします。

○宮下社会教育課長 お願いをいたします。

駒ヶ根市附属機関に関する条例第2条の規定により下記の者を駒ヶ根市文化財審議会委員に任命するということでございます。

お一人ちょっと御不幸がございまして退任という形になりますので、補充という形でお願いをしたいと思っております。

氏名は倉田文和様。

住所は記載のとおりでございます。

分野は歴史分野でございます。

任命年月日は令和5年11月1日ということで、任期については前任者の残任期間ということで令和5年11月1日から令和6年3月31日までとなっております。

よろしくをお願いいたします。

○本多教育長 文化財審議会委員の任命でございますが、倉田文和さんということですか。

お認めいただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 よろしくお願ひいたします。

議案第2号 十二天の森整備活用検討委員の委嘱について

○本多教育長 それでは議案第2号でございます。十二天の森整備活用検討委員の委嘱についてお願ひいたします。

○宮下社会教育課長 お願ひをいたします。

駒ヶ根市十二天の森整備活用検討委員会要領第3条第2項の規定により下記の者を駒ヶ根市十二天の森整備活用検討委員に委嘱するものでございます。

十二天の森の整備、活用に関しましては、購入する平成28年頃一回委員会を立ち上げまして計画等について関わっていただいた経過がございます。その後はずっと十二天の森を守る会の皆さん等で整備等をしてきていただいたわけですが、今後の十二天の森の整備、活用の方向性を決めていく上では、やはり市民の皆さんの御意見を聞きながらやっていきたいということで、ここにあります8名の方を委員に委嘱しまして今後のことについて御意見を頂戴していくようにしていきたいと思っております。

メンバーにつきましては、学識経験者、それからこれまで関わってくださっている十二天の森を守る会の役員の方、福岡区、南割区の両区長様、それから、あそこを活用していくという視点の中で幼稚園の園長先生、学校の代表の方1名を加えてございます。

委嘱年月日は令和5年10月1日。

任期につきましては令和6年3月31日までの半年間とさせていただきます。

以上です。

よろしくお願ひをいたします。

○本多教育長 後先になって大変申し訳ありませんが、昨日第1回目の委員会がございました。ちょっと委嘱のほうが遅くなって大変申し訳ございませんでした。

ちなみに、そのの氏名一覧の一番上の伊藤一幸様は宮田村の教育委員さんですけども、委員長です。それで吉田先生が副委員長ということに決まりましたので、御報告申し上げます。

後先で申し訳ありませんが、お認めいただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 お世話になります。よろしくお願ひします。

○唐澤委員 質問してもいいですか。

○本多教育長 どうぞ。

○唐澤委員 任期は区長さんたちの任期に合わせてあると思うのですが、来年度以降の委員会はどのような形、どんな計画で進んでいくのですか。

○宮下社会教育課長 今年度は課題のところを整理させていただいて、それで来期はどういうことをやっていくのか、課題は幾つあるのかというのを整理しまして、毎年1年任期の中で、今年度はこういう事業をやります、こういう整備をやります、課題があるのでじゃあ来年度はどうするかというようなところを確認しながらその年々の事業をやっていくような形にしていきたいと思っております。ですので、1年ごとの任期でずっと続けていくということを考えております。

○唐澤委員 じゃあ、最初に大きく全体を決めちゃうのではなくて、1年ごとに短期で決めていくと。

○宮下社会教育課長 そうですね。短期のところではどんなところを先にやるのかというのは目安を立てたいと思いますけれども、多分そんなに大きなお金もなかなかつけられないかなということもありますので、やっていきながらです。

ただ、課題が出てくれば、私どもとしては予算要求をしていく中でできるところを確認しながらやっていきたいなと思っております。

○唐澤委員 分かりました。

○本多教育長 よろしいでしょうか。

○唐澤委員 はい。

○本多教育長 これに関わっていかがでしょうか。――ほかのことでいいですが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 お世話になります。よろしくお願ひいたします。

また途中で進捗状況なんかを教育委員会にも報告していただけますね。

○宮下社会教育課長 そうですね。一定の方向がまとまったところで御報告をさせていただきたいと思ひます。

○本多教育長 せんだって――27日にも幼保小の連携だとか幼保小中の連携というようなことも話しました。教育委員会も関係があり、また委員さんにもお世話になることですので、進捗状況はその都度伝えたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

それでは、審議案件は終わりということでございます。

5 協議事項

なし

6 報告事項

(1) 行事共催等承認申請の専決処分について

○本多教育長 協議事項はございませんので、報告事項のほうに移りたいと思ひます。

行事共催等承認申請の専決処分について、お願ひします。

○竹田教育総務係 7ページを御覧ください。

今月ですけれども、共催1件、後援22件、計23件の申請がありました。

共催のほうは、5-111「天竜川シンポジウム」というもので、毎回共催の申請です。

22件の後援申請のうち新規のものが4件で、右端に「新規」と入れてあります。

最初に5-096です。与田切公園での「MUSIC CANP」ということで申請が上がってきました。こちらは不承認です。市内のものではないですし、会場も出店も市と関わりのあるものは一切なく、民間のイベントと判断しましたので、こちらは不承認です。

それから5-099、こちらは弓道の昇段審査の事前講習会なのですが、記録の残っている21年間は駒ヶ根で行われていなかったということで、前にもやっていたかもしれませんが新規という

ことで書いてあります。

それから5-100のほうですが、駒ヶ根ライオンズクラブの記念行事、信濃グランセローズの少年野球教室だそうです。

それから下のほうへ行きますと5-112、TSUKEMENのライブですが、こちらのほうは文化館の自主事業としての開催だそうです。

以上、不承認1件、承認が22件となります。

○本多教育長 23件中1件の不承認がございましたけれども、それ以外は、共催1件の21件の後援でございます。合計22件となりますが、どこからでも結構であります。御質問、御意見等ございましたらお願いします。

〔発言者なし〕

○本多教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 ありがとうございます。

7 その他

(1) 令和5年度上伊那社会教育関係者懇談会について

○本多教育長 それではその他のほうに移りたいと思います。

令和5年度上伊那社会教育関係者懇談会について、お願いします。

○竹田教育総務係 お願いします。

8ページです。

以前にも少しお話ししたのですが、11月17日に伊那公民館で行われるものです。

全体会では「部活動の地域移行と地域の教育力を考える」ということで飯島町教育長の片桐先生が発表されるということです。その後、分散会ということです。

それで、学校教育関係では、ここにいらっしゃる教育委員の方々、そして今回は部活動の地域移行ということなので、教育総務係長と私のほうも分散会に参加したいと思います。

それから、公民館長、主事、社会教育委員会さんのほうは社会教育課のほうで別立てで入れてありますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○本多教育長 ちなみに、これは主催が3者、教育委員会連絡協議会と社会教育連絡協議会と公民館ということになっております。

飯島の片桐教育長のほうから提案発表がなされますけれども、当初は「部活動の地域移行」という題でございましたが、今言いましたように、主催のほうで社会教育の方や公民館の方がおられるのに部活動のことを話題にしても全然分からないという方もおられると、いかがですかと言っても黙ったきりということも考えられましたので、後から「地域の教育力を考える」ということをつけて、できるだけこれを前面に出しながら話をしたいということをお聞きしております。

教育委員会は大変に興味、関心もあるかと思っておりますけれども、それでも興味のある方は社会教育でも公民館でも話をしていただけるわけですけれども、部活動だけに偏らないということをお聞きしております。僕はそんな発表にしたいということで片桐教育長のほうからはお聞きしておりますので、お願いします。

どこからでも結構であります。御意見、御質問等がございましたらお願いします。

何時にどこへ集合で、車で行くということは、どうでしょうか。

○倉田教育総務係長 また御連絡させていただきます。

受付が1時半までですので、12時半でいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○倉田教育総務係長 それでは、ここの駐車場にお願いいたします。

○赤羽子ども課長 もしかしたら社会教育委員とか公民館の関係の方も一緒に行くようになるかもしれません。

○福澤教育長職務代理者 コロナになる前は帰ってきて懇親会をしたんだよね。

○本多教育長 そこは、また詰めて連絡してください。

○倉田教育総務係長 はい。

○北澤教育次長 私は日体大に行かなきゃなので、この日は欠席になります。よろしく申し上げます。

○本多教育長 社会教育委員さんや公民館の関係者は、こちらから連絡するのかな、どうなのですか。

○宮下社会教育課長 話をさせていただいて、出席は別で出すということです。

○本多教育長 移動手段です。

○宮下社会教育課長 移動手段は、すみません、ちょっとまだ打合せしていませんが、去年までは2台か3台に分乗にしてというような感じだったように思います。

○本多教育長 また倉田係長と調整してください。

○宮下社会教育課長 はい。お願いします。

○本多教育長 それでは、当日は、福澤代理さんはまた司会でございます。お世話になります。もう慣れたところで、よろしくお願いいたします。

(2) 中学校の休日部活動地域移行の現在までの進行状況について

○本多教育長 それでは、続きまして2点目、中学校の休日部活動地域移行の現在までの進行状況について、お願いします。

○竹田教育総務係 それでは10ページを御覧ください。

今の社会教育懇談会の前に一応どういう状況になっているのかを知っていただきたくて今回まとめてみました。

これまでの取組と今後のことというふうに分けて書いてあります。

それで、今までのところですが、まず部活動の改編を行う、どちらかというと我々は手助けの立場なのですが、これをやってきました。

各部の代表または外部コーチの方に直接話をしてきました。その結果、赤中の硬式テニス部は3年間部員がいなかったので廃部、ホッケー部は男女2つだったのを1つにし、卓球部も男女2つだったのを1つにし、バドミントン部は一部がT I Jというクラブチームに移籍ということになりました。赤穂中学校の部活動は非常に多いという話を以前にもしたと思うのですが、24部活が今年は21部活となりました。それでも1人顧問というのは解消できなかったというのが実情です。

それから、(2)です。

部活指導員を導入しました。今までも技術指導をする外部指導者は入っていたわけですが、その方々と話をして、外部指導者が入っているところはなるべく外部の指導者に移していこうというコンセプトで取組をしてきたわけです。

それで、同時進行で部活指導員というものの設置要綱も準備してきました。

部活指導員と外部指導者はちょっと違うのですが、12ページに資料をつけましたので、ちょっと御覧ください。最後のページです。

「外部指導者の活用」というのと「部活指導員の任用」というところがあります。

実は、そこの図に出てきますが、外部指導者というのは子どもたちに技術的指導をするということです。でも、指導、引率、つまり監督責任は学校の先生—顧問がやるということです。

それで、下の「ケース1」「ケース2」のほうですが、部活指導員ということになると、部活指導員が子どもたちの監督や引率ができるということになります。

大きく権限が違うので分けて考えています。

それでは元に戻っていただきたいと思います。

今年、部活指導員制度を導入しまして、赤中の剣道と新体操とホッケーには部活指導員をお願いしました。これによって先生方の負担をちょっと減らすことができるということになります。

(3)のほうですが、部活指導員制度を今年から導入したので、半年間やってみてどうだったかというヒアリングを行いました。夏季大会が全て終わったところで導入した3つの剣道、新体操、ホッケーについてヒアリングを行いました。よかった点はどこか、改善を要する点はどんなところかということを保護者、学校、それから指導に当たってくれたコーチの方々から聞き取りをしました。

非常によかったという意見と、役割が明確ではなくてちょっとトラブルがあったというような意見もありましたので、今後はそちらのほうを解消できるように話し合っていくことにします。

それから文化系クラブです。

昨年の途中に文化庁のほうから文化系クラブも地域移行せよというふうに通知が来たわけですが、ヒアリングを始めたのですけれども、今のところ吹奏楽の関係のヒアリングをただけです。なぜかといいますと、やっぱり中核団体はここということが見つからなくて、例えば書道、美術、演劇、吹奏楽、合唱という、どこが受皿となり得るか、どれが中心の団体なのかというのがよく分からないんです。スポーツの場合はここがメインでやっているとはっきりしているのですけれども、文化系は非常に難しいところがあります。

先月、文化庁のほうで全国のモデル校の事例を下ろしてきたのですが、ほとんどが創作支援、つまり地域に文化系のクラブをつくって個々でやったほうがいいぞというような事例でした。一方、地域部活動推進事業の事例のほとんどは吹奏楽で、吹奏楽の場合はスポーツクラブと同じように総合クラブの一部に入れるというような事例が結構ありました。

文化系のクラブのほうは、ちょっと勉強が必要です。

それから今後のスケジュールのほうですが、これから地域移行の協議会を設立していくわけですが、設立のための準備会を来月から始めまして、委員の粹、それから組織に関することを検討していきます。それができたところで協議会を立ち上げて、動きが始まります。

最終的に目指す方向は総合型クラブになると思われるのですが、全ての種目が移行できるかという非常に難しいところがあります。できたところから形をつくっていくしかないかなというふうに考えております。

ちょっとめくっていただいて11ページを御覧ください。

これは保護者向けに今パワーポイントで作りはじめているのですが、その1ページです。

「R4」「R5」というふうに入っているのですが、実は、令和5年度までは学校部活動と言われたもので、令和5年から令和7年の終わりまでが改革推進期と言われているところです。それで、その後が過渡期になるのですが、今のところ学校部活動が徐々に減って行って地域クラブが増えていくというイメージです。それで、地域クラブができない間は部活指導員や外部指導者を少しずつ入れて、徐々に地域の方の指導が入っていくようにできたらいいなという願いの図です。

それで、同時進行で指導者の確保やなにかをやっていかなきゃいけない。それから、情報収集、啓発活動等を並行してやっていかなきゃいけないかなと思っています。

おおよその動きがこんな感じだというイメージです。

それではお戻りください。

それで、今話に出ましたが、外部指導者への指導の移行、クラブ化の相談、調整を行っていくことが必要かなと思います。

実績があるところは割りとやりやすいと思うのですが、全く学校部活だけでやっているところは、これからどこへ下ろして行って、どこへお願いしていくか、それが非常に難しいことになるかと思えます。外部指導者が入っているところから地域移行の可能性を探っていきたいと思っています。

それで、「その他」のところですが、やっぱり人材発掘をしていかなきゃいけないなということを考えています。

実は、上伊那南部——宮田、飯島、中川などとも意見交換を何度かしているのですが、皆さんも結局人材がないということで困っていらっちゃって、それで、飯島や中川のほうでは人材のリストを作っていきたいというような話をしていました。

駒ヶ根もいずれそういうときが来ますので、どの種目でどんな指導ができそうな人がいるか、そんなことも考えていきたいと考えています。

それから、スポ少、スポ協の方々には指導できないかということをお願いしているわけですが、やっぱり意識も含めて指導してもいいよという方が育っていくまでということになりますと何年もかかるものだと考えているので、改革推進期間ですぐに終わるというものではないと考えています。機会あるごとにお願ひしていきたいと思っています。

それから③番、これはちょっと大きなことなのですが、地域移行の大きな柱が学校の先生方の働き方改革から出てきています。

それで、実は、今年、赤中も東中も部活サマータイムというのを導入してくださって、夏の間は5時間授業を増やして部活動の時間を確保するというを行っています。5時間授業だとすると1日1時間短くなりますので、そうすると早く帰れるので、先生方に早く帰っていただくということなんです。

簡単に言いますと、普通に6時間授業をやると部活のスタートが4時半になり、夏場は大体6時半まで部活動があるのですが、5時間授業にすると3時半スタートの5時半終了になる。6時

間授業の場合は先生方が自分の仕事を始めるのは7時になります。7時からようやく自分の仕事が始まります。ところが、5時間授業にすると先生方の仕事が6時からスタートする。それでももう勤務時間は過ぎているのですが、その分ちょっとは負担が減るかなという取組です。

実は、その時間をどこから出すかという、夏休みの時間をちょっと授業のほうに回してもらいました。長野県は10年か15年ぐらい前までは登校日が大体210日でやっていたのですけれども、今は大体どこの学校も203~204日になっています。登校日を増やすことによって5時間授業を増やすと、そんなことで計算してやっております。

それで、東中では今年やってみたら6月の勤務時間外勤務の職員平均が昨年と比べてマイナス21時間ということなので、相当効果があるということが分かりました。

つまり、本当はクラブ化しなきゃいけない、部活動を減らさなきゃいけないのだけれども、そういうわけにはいかないの、先生方には部活を持ってもらうのだけれども、ちょっと負担を減らしてあげなきゃいけないぞと、そういう取組です。

それで、小学校のほうは、まだちょっとお願いはしていないのですが、もしできれば小学校のほうでも、今は夏休みが30日近くありますので、夏休みをちょっと減らして中学生に合わせてくれないかなというようにお願いしているところですが、今年の結果次第で考えるというふうなお返事でした。

それから、小中学校の保護者への説明会の機会をこれからはどんどん取っていかなきゃいけないかなということで、一応東中でも赤中でも説明会はしたのですけれども、やっぱり保護者は1回聞いても内容は分からないので、これからはもう少し丁寧に行っていくって、これは学校の先生の仕事じゃなくて、これからは地域、私たち大人がみんなで関わっていかなきゃいけない問題なのだなということを徐々に理解していただくことが必要なというふうに考えています。

ちょっとまだまだできないことがたくさんあるのですが、取りあえず、今のところはこんな現状です。

以上です。

○本多教育長 今発表がありましたけれども、御質問、御意見等ございますか。

○赤羽子ども課長 うちの最大の課題は、ここにもその他の①に「総合型SC設置に向けて準備を始める」というふうに書いてありますけれども、10年ぐらい前ですかね、一度総合型スポーツクラブを立ち上げようという動きがありましたけれども、それができなくなった経緯があります。

一番大きな原因はお金です。体育協会とかスポーツ少年団といったスポーツ団体を総合型のクラブにまとめていくについては、やっぱり専門的な人を雇っていかなきゃならないというような現状があった中、その人を雇ったりする財源がなかったということです。財源をうまく見つけ出せなかったということが1つです。

それから、ちょっとそれぞれの競技団体の事情があったわけですが、当時の体協とスポーツ少年団が一体化できなかった。そういうことから、そのときには総合型のスポーツクラブの立ち上げができなかったという経緯があります。

当時のことも振り返りながら、きちんともう一度そこら辺のところを整理して進めていくということと、総合型スポーツクラブと一言で言っておりますけれども、やっぱりメリット、デメリットを挙げながら本当にどういうものかということをもう少し協議会の中でもんでいき

いと思っています。

うちの場合は総合型スポーツクラブを立ち上げるということが一度頓挫しているのですが、形としてはそういうものでいいと思うのですけれども、そういう名称がいいのかどうかということで、そこをもうちょっと考えなきゃいけないかなというふうに私としては思っております。

○本多教育長 何か関連してありますか。よろしいですか。

○木下委員 今ざっくりお聞きした中で、これから指導者や指導予定者のリストを作っていくという話がありましたけれども、その中でもやっぱり予算の関係でいろいろという事情は十分分かるわけです。

市内2校の中学校であっても、やっぱりなかなか温度差があるのかなというのは、今の竹田先生のお話で理解はできます。

やっぱりこれは地域にお願いしていくということが大前提なので、保護者の理解だとか、そういうものもあるのですけれども、地域への説明会とか理解を得るための機会、こういうものはどんどんと早めに行って、市ではこういう方向で考えています、近隣市町村でもこうですというようなことも含めて話をして、その中から、指導者の候補者ですか、そういうことを上手に上げていけばいいのかなと、そういう流れで持っていかないと、やっぱり急にやってもお願いできませんよね。

スポーツによっては企業で野球のクラブを持っているところとかサッカーのクラブを持っているところとか、企業にもそういう指導者がいますので、上手にそういうところからいい案を聞き出すこともできると思いますので、これからは地域向けの説明会というのもきちんとやったほうがいいのではないのでしょうか。

もちろん我々もそこへは参加させていただきたいです。やっぱり行政の考えていることと民間の意見というのは全く別の場合もあるかもしれませんから、お願いします。

○本多教育長 大事な御指摘をありがとうございます。

○赤羽子ども課長 そうですよ。企業の中にはクラブを持っているところもありますよね。そういうところを活用していくということも大事かもしれません。

○木下委員 将来地元には人材が欲しいよとか部員が欲しいよというところがあれば積極的に来てくれるのではないかなと思うわけです。

○本多教育長 タカノには駒ヶ根市出身で木曾青峰高校に行った国体に出ている相撲の方もいます。会社がそういうバックアップをしてやっているという、そんなこともあります。その中学校版みたいなこともできるかもしれません。

いずれにしても、簡単に言うと、スポ少があって、社会人も含めた体協はあるけれども、部活があったのでその真ん中がすぽっとなくなっちゃうわけだよね。

もしもこれからは学校におんぶにだっこだということのをなくして地域でやるのだといったときには、いや俺はできないとか、そういうことを言っているのではなくて、もうこうなっていってもらわなきゃ、どっちへも広がっていくというようになってもらわないと困るかなというイメージはあるわけです。

これをこのまま今度の17日に持っていくと、例えば2の(1)の③は、「最終的に目指す方向は総合型クラブ」じゃなくて、さっき話もあつたけれども、これは頓挫しているのですが、「総合型クラブのようなクラブ」と、言葉かもしれないけれども、そういうふうにしなないと……

○赤羽子ども課長 これは17日には持っていかないのですよね。

○竹田教育総務係 持っていかないです。これは現状を理解してもらうための資料です。

○本多教育長 了解です。

こういうのを求めるというのだけれども、やっぱり伊那市もうまく行かないのはお金だということですよね。あとは本当に指導者です。

私は聞いていて思ったのですけれども、これからどんなにすばらしいいいものやっても、俺はいいわという……。

例えば公民館で水墨画講座をやると言ったら、私はあの人とはやりたくないからと別の講座ができて、ああ私もこの人と一緒に嫌だと言って結局4つも5つも同じ水墨画の講座ができるのと同じように、いいなと思ってスタートしても必ずそういう方たちは出てくるということもあって、子どものため子どものためと言ってもそんなことが出てくる可能性はありますので、そんなことも念頭に置きながら、そこで考えられる最良、ベストのものをやっていければいいなというふうに思います。

あとは、御指摘がありました地域への説明会、保護者へはもちろん、校内、校外への周知。

それから、先ほどの竹田先生のサマータイムの話だけど、東中でやっているということは聞くのだけれども、赤中自体は本当にそのとおりに本腰でやったかどうかもちよつと……。だから、来年から即小学校も全部とかというのは、赤中の先生方も納得して、よしやってみるかとなっているのかどうなのかというあたりは現場がちゃんとやらないとまずいのではないかなというふうに思うのです。

もし本当にそれをやるのであれば、そちらのほうにも実情やしっかりとデータも取ってもらうというようなことをお願いしていかなきゃいけないなというふうに思います。

あと、東中は小規模校だけれども、大規模校や中規模校の結果や実績がきちっと出ないとなかなか人が動かさないで、そんなことを心配しています。

私のほうでしゃべってばかりで申し訳ないけれども、もう一つは、先ほどの続きで、保護者に理解してもらうには1回2回じゃなくて何回でもやらなきゃいけないのではないかなと思います。

それと、冒頭で出たように、21部活で1人顧問がなかなか解消できないと言ったけれども、現にホッケーの顧問を1人にしたら、指導員の具合が悪かったり用事で行けなかったりしたら、その代替でついてくれる先生がいるというふうに年度当初は聞いていたのだけれども、そういうのをきちっとやれるようにしていかないと、前まで4人いたのが突然1人になって、その指導員の都合が悪かったらあとは誰も協力しないというような学校体制はやっぱりちよつとまずいかなというふうに思うので、学校でもそういうことがあり得るというふうに考えてやっていってもらわないといけないと思います。

だから、働き方改革ということを前面に出し過ぎるとそういうふうになっていくと思いますので、それは分かるのだけれども、地域も同じよう協力しなければなかなかできないと悩んでいるところだから、お互いのところを聞き合っやっていかないといけないと思います。そうしないと、突然、部活がなくなりますみたいな誤解の通知が出たりすることになっちゃうじゃないかと思ひます。

私は赤中から「部活には直接タッチしませんが困ったときには一緒に出ます」というようなことを聞いていました。そうすればうまく回っていくかなと思ったのですけれども、なかなかうま

く回っていないようなところもあるようなので、そこのところの再確認を並行してやっていかなきゃいけないのかなというふうに思っております。

○宮下社会教育課長 ここに指導者の育成には5年から10年というところがあるのですけれども、スポ少や体協の皆さんのお話を聞くと、やっぱり小学生のバレーボールと中学生のバレーボールではボール自体やネットの高さも違ったりするということで、小学生を教えた人が、じゃあそのまま中学生を教えられるかという、やっぱりその指導にも問題があるし、同じ会場で一緒に練習はできないというような会場の部分での問題もあるというようなところも聞こえてきております。

一般の体育館だけではなくて学校の体育館をどういうふうに開放していくかというような部分の課題もあるのかなというふうに思っています。

○本多教育長 出しっ放しで結構ですので、いろいろな疑問、ここはどうなのかというようなところをもう少しお聞かせいただければありがたいと思います。

○唐澤委員 これはこれで課題なのですけれども、こうやって考えると、やっぱりそもそも学校の部活とは何だということになっていくと思うのです。

中体連だとか、文化系にもいろいろな団体があって、上の大会があるないによらず毎日練習しなきゃならないということもあるのですけれども、そのために外部の人を入れてまで学校でやることなのかということもちょっと思います。でも、これをきっかけに地域の方が学校に入って一緒にやっていくようになれば、それはそれでいいのかなと思うわけです。

ただ楽しむだけの部活動というか、そういうのもあっていいと思うし、ちょっとまとまりませんけれども、本当に考えるところはいっぱいあります。

競技は競技で、ずっと上を目指す線があるとは思いますが、部活動別に、学校でクラブ活動をやるように週一でとか、そんな形の部活があってもいいと思いますし、地域で大人と一緒にやるというのもいいと思うわけです。学校単位ということをやっているとなかなか難しいのではないかなと思います。

○竹田教育総務係 狙っているのは、もちろんそこなのです。生涯スポーツ的なもので対応して、いろんな価値観の下の活動やスポーツなのだけれども、中体連がある以上、そこに寄ってってしまうという感じですね。だから、本当は単に楽しむためのスポーツだっていいはずだし、人によって取り組み方が違っていいはずなのだけれども、全国大会があるがゆえに、やっていると試したい、やっていくと勝ちたいというのが自然な流れになってしまうというのが現状です。

でも、取りあえず地域の方々が子どもたちでスポーツに取り組みたいという人たちを応援できるような環境にしていかなきゃいけないというのが大きな流れです。

○赤羽子ども課長 競技によっては全国大会を廃止にしたところもありますね。

○竹田教育総務係 柔道ですね。

競技によっては、別に全国大会があるので中体連に重きを置かなくても行けそうだという種目もあるのですけれども、夏の大会は全中じゃないという種目もあるので、そこが難しいところかと思えます。

○本多教育長 唐澤委員さんの言うような御意見も今は出ているのですよね。楽しむという子どもたちがいてはいけないのかと、ピラミッドの頂点だけを目指すような部活はなくてもいいじゃないかというようなことも当然出てくることでありまして……。

そもそも何でそういう意見が出るかと言ったら、指導者やなにかは、これから——今は毎日学校だから土日だけですけれども、ゆくゆくは学校から部活動ということがなくなるというような、もうそういうことまで字面になっているわけですから、受けた「指導をする側の人」たちは、お金をもらって指導するとなったら、金をもらっているのにちっとも強くできないのかとなったら躍起になりますので、これは人間のさがです。報酬をもらっておきながらそれに応えることができないと力がないのかとか言われたりするのです。必死になって上を目指すということが出てくる可能性は大です。

そういうこともあるのだけれども、一方では、例えばドイツやなんかでは、学校の先生方は一切部活動なんかはやっていませんので、欧米ではほかにもそういう国がありますけれども、楽しむところもあれば、オリンピックのように上を目指すというようなところもあり、そういうのは自分の方向性が決まったらそういうところへ入っていくとか、そういう自然な流れでなっています。

必ずしも欧米をまねする必要はないけれども、日本人は、戦後、学校におんぶにだっこし過ぎたきらいがあるのですよね。ここへ来て突然に言うから、みんな困るじゃないか、何を突然言うのみたいな感じなのだけれども、本当にみんなが困っている、まごついているというのが実態ですよ。

だから、私なんかが一番心配しているのは、申し訳ないけれども、完璧ではなかったかもしれないけれども、学校では部活動を通じて人間教育というのをやっていたと思うので、勉強だけじゃなくて、部活動を頑張りながら勉強をやっている子を幾らでも救ってきたわけです。そういうのはどうなるのだと言うのだけれども、そういうのに返事はないのです。ただ移行する移行するという話題にばかりなっている。

専門的な教員として配置されたときには、当然、心理学だとか、そういう勉強は個人的にも学校でもやらなきゃいけないことで、そういう立場の人と一般のスポーツを教えてくれる人が突然に移行したら思うように行かないなんていうのは、そんなのは当たり前のことです。だから、引き受けた方たちも本当に苦勞して、またそういう研修をうんと積んでいかなきゃいけないと思うのですけれども、問題は山積しております。

地域の場合なんかはどうなのかね、みんなは意外と結局まだずっと部活動をやってくれるって意識でいるのではないですかね。

○赤羽子ども課長 地域の方の声はまだ聞いていません。

○唐澤委員 学校は1人1つ部活に入らなきゃいけないというスタンスですか。

○本多教育長 強制ではないと思います。

今は帰宅部も増えていますし、eスポーツをオリンピックの種目にという話が出てきたので余計に……。

文化系、特に吹奏楽だとか、そっちの大会を目指すとかいう子のほうは増えてきているというふうには聞くけれども、上伊那、駒ヶ根市内にもあるのかな、そんなにもないのかな……。そうかって、じゃあ運動部にみんな行っているかと言ったら、そうでもないのですよね。結構帰宅部の子が増えているということはちらっと聞きました。

○北澤教育次長 何とか技術部とか創作部、それが多くなっていますかね。

○本多教育長 東中は創作部の子が多いですよ。

○北澤教育次長 多いですね。

○木下委員 そもそもこれは教員の働き方改革と同時進行で、そこで成果が出ない限り、これは矛盾した政策になっちゃうわけですよ。やっぱりこういうところは地域の人や親御さんなどからは見えないですよ。

○本多教育長 私もさっき話を聞いていて、いや、それはあるけれども、どうしても部活動を継続してもらいたいよと、先生たちを助けるからと、親が私たちも何とかしますからと言って強く出てくれば、これもまた違ってくるかと思うけれども、そんなのは全然ですかね。どちらもあなた任せになっちゃっては困るのでね。

それで、お金で解決しようと思って4%の教員の手当を10%にするかといって検討していると言うけれども、どのくらいの進捗状況なのか……。

あと、候補者リストというようなことが出ました。県の教育委員会関係のところでも発言したりして、県のほうが中心になってそれぞれの地区に下ろせるようなリストを作ればいいのではないかと、また思いがあるのだったら県の信州型ネットを作れというようなことを言ったけれども、音沙汰も何もないし、やっている気配もないです。

逆に駒ヶ根市は体育系の大学の日体大、東海大、中京大とかとも連携しているから、例えばそういうところ—中京大だとか東海大とかいうところの教授やなんかともお話しして、そちらの部活の先進事例やこうするといいというようなこと、あるいは人材確保なんかはこうするといいというような最新の情報なんかも得たらどうかと、そんなこともしっかりやろうと思っております。

日本海側の県、福井県だとか石川県だとか、そんな県は長野県なんて問題にならないくらい部活動が活発ですので、それは地域地域でいろんな大会をつくり上げては何とか大会を目指そうなんて言って県の中でがんがんにやっています。時折こういう部活の問題なんかがあると、何でそんな国の言っていることをまともに受け止めているのだなどと言って、県同士の集まりでは長野県がばかにされているというような話も聞いたことがあります。

何で正直に対応しようとするのかということですが、今回ばかりは、ちょっとなかなか思うように行かないので苦心しているようです。

大分長時間になってまいりましたが、よろしいでしょうか。

今の段階で結構ですので、出しっ放しでも結構です。

福澤代理さん、よろしいですか。

○福澤教育長職務代理者 これは地方から出ているのだけれども、地方と中央の差というのは、状況は全然違うと思うのだよね。都会はできるのだろうけれども、地方が一番困るということだと思います。

だから、もともとは先生のことを考えて始まった話だということですが、出たところは子どものことが中心で始まった話じゃないということが第1点ですね。

我々が考えれば、それだけ仕事の時間が長くなったり部活を担当したりとなれば、その分の手当をきちんとつけて、それで勉強もしてもらって仕事をしてもらうということが筋とすれば、費用対効果等、そういうことを考えたりしても、そのほうが人財的には教員のレベルも上がってくるし、前向きな話になってくるような気がします。

やっぱり給与体系が普通の企業とは違うので、やればやっただけきちんと手当が出るというも

のではないから、そこら辺が何か不思議で、仕事に分かりづらい部分があるのかなという気持ちです。払ってやるのだからやるのが当然と言われても、部活動を担当する教員と担当しない教員の差なんていうのは歴然としているものね。なかなか難しいなという感じはします。

今までも部活を担当する先生はそうだったと思うのだけれども、本当は先生に経験がなかったら勉強してやってもらう、経験がなくても何とかして勉強して生徒たちと一緒にやったというのが多かったのではないかなと思います。

学校の中の雰囲気はどうかのかなということもあるのかもしれませんが、今もあつたけれども、この間の研修会の先生の話では、学校の中で先生と生徒が悩んで学校で対応しておるのだということもあるし、どれがベストだというものではなくて、やり方を考えておるのかなということも聞いてみたいなという気もします。

我々が一生懸命考えても、それはなかなか難しい話だと思います。

○赤羽子ども課長 東伊那、中沢には地区体協があつて、それが総合型の体系をなしているということなんだけれども、地区体協をそれぞれ総合型という名前に変えて運営していったらどうかという話も当時はあつたのです。

○福澤教育長職務代理者 それは専門的に、例えば日常の中で私的な働き方というのができるかどうかというのにはちょっと厳しい部分があるから、地区の体協の中の各種目の人たちが中学生を集めて週に1回一緒になってやるかという話はできないと思うのですよね。

それが一番いい形というか、地域に溶け込んでみんなと一緒にやるということはいいと思うのですよね。この間の運動会もそうだったけれども、中学生をなるべく引っ張り出してきて、企画してもらってやるかという取組というのは、それが地域の力になってくると思うのですよ。

○赤羽子ども課長 その中で体を動かす楽しみを体験できることと専門的にやっていくところというのはだんだん生まれてくるということで、専門的にやりたい人がそこへ入って行って、今度はそういう子どもたちを集めてやるというのも1つだし、今の体協のように、運動会とか、そういうものをしながら地域の体力づくりや体力の底上げをしていくということ、やっぱりその両面がある中での組織、そういうものができていくのがいいのかなと思います。

当時は、そういうのもあつたのですけれども、やっぱり補助金目当てのような話をしちゃったので、結局はそこが頓挫しちゃったという経過です。

○木下委員 今、中沢の体協の話が出ましたけれども、今お金の話もあつたのですけれども、当時はどんな様子だったのですか。

○赤羽子ども課長 当時は、総合型はスポーツに関係する人もしない人もみんなでいろんな立場からお金を出し合つて、そのお金をもとに体育振興をしていくというようなことが前提にあつたので、まさに中沢も東伊那も、区民の皆さんから体育協会費みたいに集めて、それで、今の体協のようにいろんなゴルフをやったりソフトボールをやったりしていたので、その形でいいんじゃないかという話だったのです。

それで、クラブハウスを造るとか、そういうものにはお金が出たので、そういうものを整備しようという話もあつたのですけれども、それもちょっと……。

問題は、その後、本当にそれを本格的にスタートして、専門的な人がそこで食っていけるがと行ったときに、地域の出している今の会費というのはそこまでちょっと行かないなということで、当時は今でいうスポーツ推進委員の人たちに熱心な人たちもいたので、その人たちでやりましょ

うかという話も一部に少しはありました。

形としては、地区体協でやってもいいと思うのです。

○木下委員 これは、ちょっと会長さんに話をしておいてみますね。

○福澤教育長職務代理 高校へ行ったときに選択してそこにぼんと入れるというような形を中学や小学校でつくっていくのだという明確なものがあれば、地域の中でも、それじゃあいろいろの経験をさせて、それで選択肢から選ばせる、経験をさせるということなら、今のスポーツ少年団もそうですし、できると思うのだけよ。

そういうものをつくって、専門的にやれば高校に入ってからやれと、そういう形をきちんとつくれば、地域でも、例えば公民館でも何でも計画して、中学生も一緒に呼び込んで経験させるということはできると思うし、そういうのは、やっぱり子どもたちが地域の行事と一緒に参加して、大人と一緒にやって、ソフトボールでも野球でもそうだけれど、子どもを立ててやらせると子どもはうんとやりたがるとか一生懸命やるとかいうことは目に見えてありますよ。

○赤羽子ども課長 ソフトボールなどは3代でやっておる世帯がありましたからね。

○福澤教育長職務代理 小さい頃はやらせてくれないけれども、やりたくなってくるということはありません。

だけれども、こういうものがびゅっと出てきちゃって、これは……

○赤羽子ども課長 これはあくまでもイメージですので、このとおりにやれとかやるとかいうものではなくて、一応こういうような形が今はあるということです。

○本多教育長 今話を聞いていまして思い出したことがあります。

私が中学で校長をやったとき、当時は東海第三だったのですけれども——昨日の新聞なんかにも高校のバスケットの記事があって、男子は100点試合で勝ち、女子のほうの佐久長聖との試合はぎりぎり4点差ぐらいでしたけれども、男子も女子も東海大諏訪が連覇で優勝とありました。

当時、永明中の子どもたちは、バスケットボールを中学に来て始めて必死になってやっていたときに、東海第三の先生が地域に声をかけて、どこの中学校でもいいからうちに練習へ来たければどうぞと言って門戸を広げたら、物すごく地域全体の底上げができたのですよね。それで県でベストフォーに入ったのです。

その後の若い指導者——今の監督は、当時も若かったけれども、そういう発想を持っていたのですよね。必ずしも自分の高校へ来なくていいので、とにかくバスケットボールの好きな人はうちの高校に練習においでということでした。

ですから、そういうような発想を考えたときに、それは私立だからできるのではなくて、そういう選手が欲しいのだったら、地元の高校だってうちの高校へどうしても来てくれだけじゃなくて、ゆくゆくはということでそういう強いところが門戸を広げるというのもつながりという点ではいいのかもしれないなということを思いました。

陸上にしたって何にしたって、高校は選手が欲しいわけだから、義務だけで必死こいてやる必要もないのではないかなという思いがします。

困った困ったという話ばかりできりが無いと思いますけれども、正直、本当に困っているところです。いろんな情報やなんか、教育委員さんたちの関係等々、また他市町村の情報等がありましたら、またいろいろ教えていただいたりしながら……(唐澤委員「1ついいですか」と呼ぶ)はい、どうぞ。

○唐澤委員 昔は部活動をやったということで内申点があったと言われたのですけれども、うちの子どもも2人とも、長男もそうだし長女もそうだし、陸上をやっていて、それで前期試験を受けて高校へ行けたわけです。だから、それで助かったところもあるのです。

しかし、実際には、そういう部活と進学を結びつけるというのはあまりよくないような気がするのです。現状がどういうふうかはちょっと分からないのですけれども、たまたま競技の専門の先生が顧問になったときがあったのでよかったですし、高校になれば当然そういう先生が多いのでいいのですけれども、文化系にしてもスポーツ系にしても、部活は部活、進学は進学で別ということで考えてもらったほうがいい気はします。

○本多教育長 今も言っておるけれども、高校の特色を出せという時期がありました。

いっとき諏訪清陵は野球がうんと強かったことがありますよね。あのときには、それこそ前期試験で――今は県内の普通科高校はほとんどで前期試験はなくなりましたけれども――前期試験がまだあったときには10人を諏訪清陵で採りましょうというときがありました。それで、今のように例えば勉強で前期に8人を採ったら2人だけは運動で採りましょうとか、そういうのを出した時期があったのです。結局それもなくなって、頓挫しました。

だから、そういうのを何年か続けているうちに、野球がぐっとなっていて、もともとスケートをやっているんで腰も強いし、諏訪清陵が常にベストフォー、ベストエイトの中に入るという時期がありましたけれども、今は全然……。

そういう方針を取ったのと指導者がぱっと重なったときにはいい結果が出て、ちょうど赤穂高校の校長をやっていた久保村さんが諏訪清陵にいたあたりがうんと強かったです。

特徴を出すというのは、まだ、公立でもそういうところは出しております。うちはぜひ前期で早くいいところを欲しいなどというのは、特徴を出すところは前期試験でがちと採ります。私立は私立で生き残りをかけて必死になっています。

○本多教育長 ありがとうございます。

今回だけではなくて、部活動の地域移行問題は何年も続きますので、本当に、ああこんなものがないんじゃないかとか、あるいは他県や他市町村でこんなことをやっているという情報を聞いたなんていうのも含めて、何かありましたらまた教えていただければと思います。

以上で予定した議題は全部終わりましたが、全体を通して何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

8 閉会

○本多教育長 ありがとうございます。

それでは、以上で第12回の教育委員会定例会を終了いたします。

ありがとうございました。

午後3時18分 閉会

駒ヶ根市教育委員会会議規則第25条の規定によりここに署名する。

令和 年 月 日

駒ヶ根市教育委員会

教 育 長 _____

教育長職務代理者 _____

委 員 _____

委 員 _____

委 員 _____